

東京女子高等師範學校附屬幼稚園

創立五十五週年を迎へて

氏 原 銀

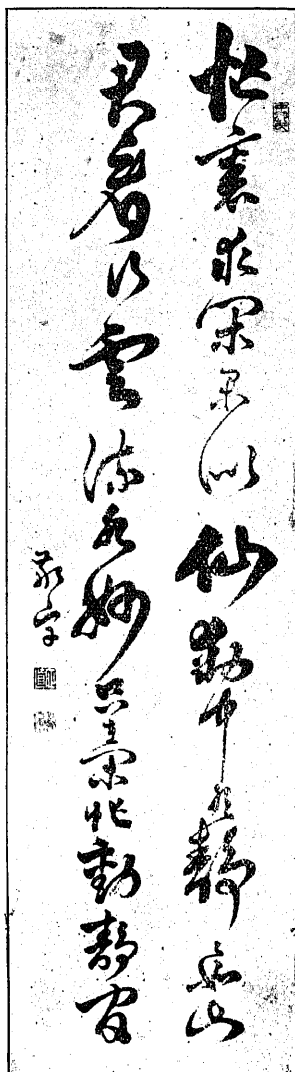
我國の幼稚園として、明治九年十一月東京女子師範學校（現今東京女子高等師範學校の前身）附屬幼稚園が創立せられてより、本年が五十五週年に當り、此五つ昔半の經歷を迎へる今日を限りなく慶賀す。今日では幼稚園事業全國に普及し、年々盛況を見るも、昔は幼稚園を理解するもの少なく、國民基礎教育を必要視せられざる傾向ありて此必要なる幼児教育も、時機早く切角の設備も蹉跌せし實例は、明治十二年五月大阪府で園舎庭園を立派にこしらへて、府立模範幼稚園と稱し、我國第二番目の開園として他府縣に卒先して開設し

此模範園と名づけたのは、此府立園が模範となつて此處に保育見習生を入學せしめ、此卒業生によりて、府下一般に幼稚園を設置せん主旨に出でたものなりし。此の見習生の出でて、東區愛珠幼稚園の一を開園せしのみで、此府立園は僅二年にして府會の協賛を得ず終に廢園の不幸に遇ひたり。之れ當時の府會議員の、幼稚園を理解する者少數なるにより、否決の運命を見たる事にて、之れ未だ時機の早かりしによるものなり。

此時府の當局者は之れを惜み、府の豫備金利子を流用して、明治十六年迄維持したるも終に廢園

となり、辛ふじて、府立幼稚園とし其系統を繼續す。斯の如く世人の幼稚園の事を能く理解し得ざる時代も、無事經過相成りたる、女高師附屬園の今日に繼續益々發展盛況裡に、此目出度五十五週年を迎ふる事は、大に慶賀する次第なり。之れ代

文部大輔（次官相當） 田中不二麿氏
 文部少輔（普通學務局長相當ならん）
 神田 孝平氏
 創立以來の職員
 攝理（校長の事）中村正直氏 監事 關信三氏



中村正直先生筆

々の職員諸氏の熱誠以て職責に當られたる結果と敬意を表して賛美する所なり。其創立當時（明治九年）の文部省の事は存ぜざるも、私の保育見習として在學（明治十一年）の頃の當局者は左に

文部卿（大臣相當） 西郷 從道氏

主席保母 松野クララ氏 保母 豊田英雄氏
 保母 近藤濱氏
 本園の創立當時に於ては、我國始めての事として其設備供給上に付き、其職員諸氏は幾多の辛勞ありし。其器具恩物等の一通り見本を、獨逸より

取寄せて之れを模造さすのに付ては、我國では何分始めての事とて、其造り方思ふ様に出來ず、殊

に其見本の机面にはインチ方罫を引くもの、之れが正確に出來ず、又其恩物の積木の如きは、角度の正しくなく、之等を度々造り直ほさせ、又色紙の如きは見本は皆洋紙なれば、之れを日本紙に染めさすに度々と染め直ほさせ、又褶み紙、織り紙等の裁ち方も、其角度正しからず、之等の改造差圖に中々苦心を拂はれたり。就中保育唱歌は皆無の時代で、保姆豐田先生同近藤先生が作歌して之れを宮内省式部寮の伶人先生に作曲を願ひ、之れを伶人諸氏に教授を受け、保育に使用すると言ふ順序で、中々一つの唱歌を得るに今日の如く手

易く出來ざりし。此作曲者教授者としては、東儀季芳、芝葛鎮、林廣守の三氏交るゝ幼稚園に來られて職員一同へ教へられたり。其後官立音楽校私立音楽校が出來て年々多數の卒業生出で又唱歌

書の出版も多くなつた。今日より見れば、實に想像も及ばざる不便の時代なりし。

凡何事も其創設時代に於ける苦心は免れざる事にて、本園初代保育者諸氏の此衝に當り、能く今日の基礎を立てられたるを感謝すると共に、之れを繼續せられたる、代々の保育者諸氏の科學の進歩に伴ふ時代思潮の研鑽に努められ、幾多の改良をはかり、其體面を整へ、内容の充實をはかり、全國に模範を示し且指導して、今日の發展を見る。其努力の程を敬意を表して感謝す。茲に創立五十週年を迎ふるに付、謹で祝辭を述べ、拙文を以て其時の狀態を記す。

左に五十三年前本園在學の頃に於ての出來事の意外に感じた事又面白かりし事を記す。

一、伶人東儀季芳先生が、唱歌教授の爲め例よりもは早く來園相成し時、宮様が妃殿下御同伴で御來園あつたので（此宮様の御名は忘れまし）

東儀先生は、宮様兩殿下に拜謁せられた處、妃殿下が季芳久々でと、御挨拶の御言葉を賜つた時、宮様は何久々ではない、例も東儀季芳の我邸に來る時は、すき見をして居ると仰せられたので一同は、宮様の滑稽な御言葉を面白く拜聴せり。

二、主席保姆松野クララ先生は、日本語に熟せられず、私の名を呼ばれるに、尊稱を付けて、お氏原さんと申されたので、おかしさをこらへて返事をしました。

三、或時松野クララ先生が胃瘧癰おこり、一同驚き本校の方へも通知する、又向ひの順天堂へも來診を頼みに行く、本校からは中村攝理も他の職員使丁等を連れて來園有り。其松野先生の病勢は中々激しく、醫師の注射も數度で、漸く痛みも治し一時は大騒ぎなりし。夫れから、先生を安靜に御宅へ送る方法を、一同相談中、突然本校使丁が本校に待ち居る中村攝理の馬車にて送る事を提議

した處、中村攝理は使丁に向ひ、君の説が良いと申され、直ちに決行、關監事同車して、松野先生の御宅に送られたり（中村攝理の使丁に對し同輩に於ける態度で君の説がよいと言はれし時其身分の階級の念なし溫情深く見受けられ何となく尊敬の念を感じず）

四、或時平常は大して亂暴にも見えぬ男幼兒の泉水の中の龜の子を取つて來て其龜の首を抜き取つた事あり。一同大に驚きたり。之れ龜の其首を伸ばし又は縮めたりするを見て研究的にした行爲ならん。

五、泉水の金魚に麩をやるに、其周圍に幼兒を並ばして其手に麩を一つづつ持たすに、其中の幼兒の一人が麩を頂戴と言ふ。確かに一同へ渡す時與へた筈なるに、請求するによゝ未だ與へぬものと思ひて麩を渡したるに、又請求せり。之れは金魚にはやらす、自分がたべたもので、此時は午後

なりしにより、間食時近附て、自宅へ歸る迄待ち
きれず食慾の起りたるものならん。依て金魚に麩
を與ふるに時を選ぶ必要ありと一同思ひたり。

幼兒教育の第三十卷發行を

祝して

本年は幼兒教育の誌齡三十卷を重ねる事となり
しを慶賀す。本誌の起原、フレイベル會報、婦人
と子ども、幼兒教育三改題を経て、今日其紙面の
記事益々發展、全國は申迄もなく新領土及海外の
保育者に、幼兒教育と唯一の雜誌として、參考指
導の役目をなし利益を附與せらるゝ事は、實に斯
道の爲め大なる仕事と言ふべし。併し此編輯に付
ては別に專任者有りての事業でなく、代々の女高
師附屬幼稚園の職員諸氏の、本務の餘暇執筆編輯
に従事せられ、今日に繼續せらるゝ、其勞力の程

を感謝して止まざる次第なり。

尙本會は保育の研究向上の爲めに夏期保育講習
會を開催せらるゝ事數度。此第一回は神田橋詰の
東京府教育會内に於てす。其後はお茶水幼稚園の
遊戲室に於て開かれ、全國より上京の保育者多く
私も大阪より數十名と共に出席せり。此の閉會の
當日には茶話會を開き、各員のかくし藝に、落語
あり、謠曲あり、勸進帳をオルガンで弾く者等あ
りて實に面白かりし。此講習會が、其後毎夏開催
の文部省の保姆講習會の前身と言ふべし。以上本
雜誌の今日あるを祝すると共に、之れが編輯に、
努力せられし代々のお茶の水園の職員諸氏并に、
現代の職員諸氏の勞力を、深甚に敬意を表し謹ん
で感謝し併せて昔時の思ひ出を記す。